

## 第5章 確認調査の概要

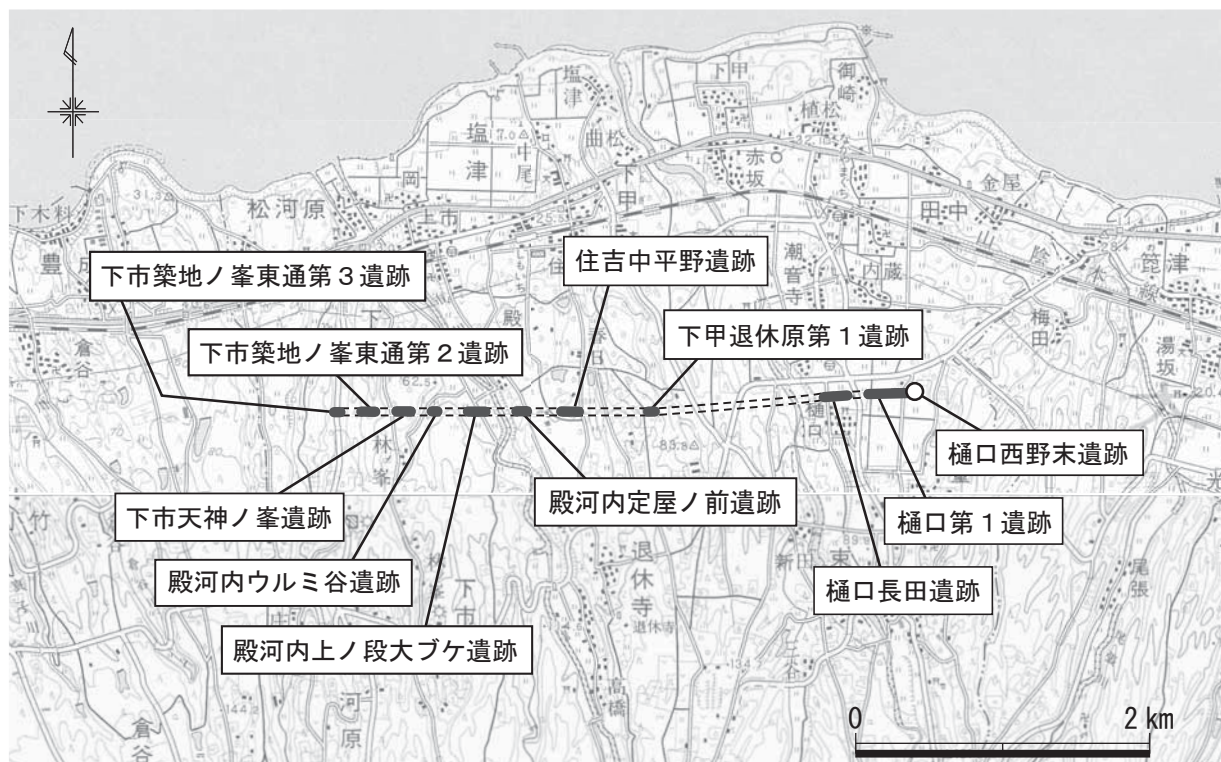
### 第1節 概要

平成21年度には、中山名和道路建設予定地内の11遺跡について確認調査を実施した(第33図)。調査面積の総計は3221.3㎡である。

調査の結果、下市築地ノ峯東通第3遺跡、下市築地ノ峯東通第2遺跡、下市天神ノ峯遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、下甲退休原第1遺跡、樋口西野末遺跡の7遺跡では遺構を検出し、遺跡が現存することを確認した。また、殿河内上ノ段大ブケ遺跡では、遺構は確認できなかったものの、遺物包含層が現存することを確認した。住吉中平野遺跡、樋口長田遺跡、樋口第1遺跡の3遺跡では遺構、遺物包含層とも確認できなかった(表6参照)。

表6 確認調査成果一覧

遺跡名	トレンチ数	調査面積	主な検出遺構	遺物包含層の有無	主な時期
下市築地ノ峯東通第3遺跡	6	120㎡	土坑1	なし	縄文時代～弥生時代
下市築地ノ峯東通第2遺跡	10	111㎡	土坑2	あり	縄文時代～古代
下市天神ノ峯遺跡	25	1418.3㎡	土坑1	なし	縄文時代
殿河内ウルミ谷遺跡	5	66.5㎡	土坑1・段状遺構2	あり	古墳時代～古代
殿河内上ノ段大ブケ遺跡	10	200㎡	-	あり	縄文時代
殿河内定屋ノ前遺跡	21	286㎡	竪穴住居跡1・溝1・道路状遺構	あり	弥生時代
住吉中平野遺跡	11	214㎡	-	なし	-
下甲退休原第1遺跡	15	213.5㎡	溝1・土坑1	あり	縄文時代～弥生時代
樋口長田遺跡	12	240㎡	-	なし	-
樋口第1遺跡	12	240㎡	-	なし	-
樋口西野末遺跡	4	112㎡	溝1・加工段1	あり	古代



第33図 確認調査遺跡位置図

第2節 下市築地ノ峯東通第3遺跡の調査

調査地点 大山町下市 399 - 2 外

調査期間 平成21年 9月3日～平成21年 9月30日

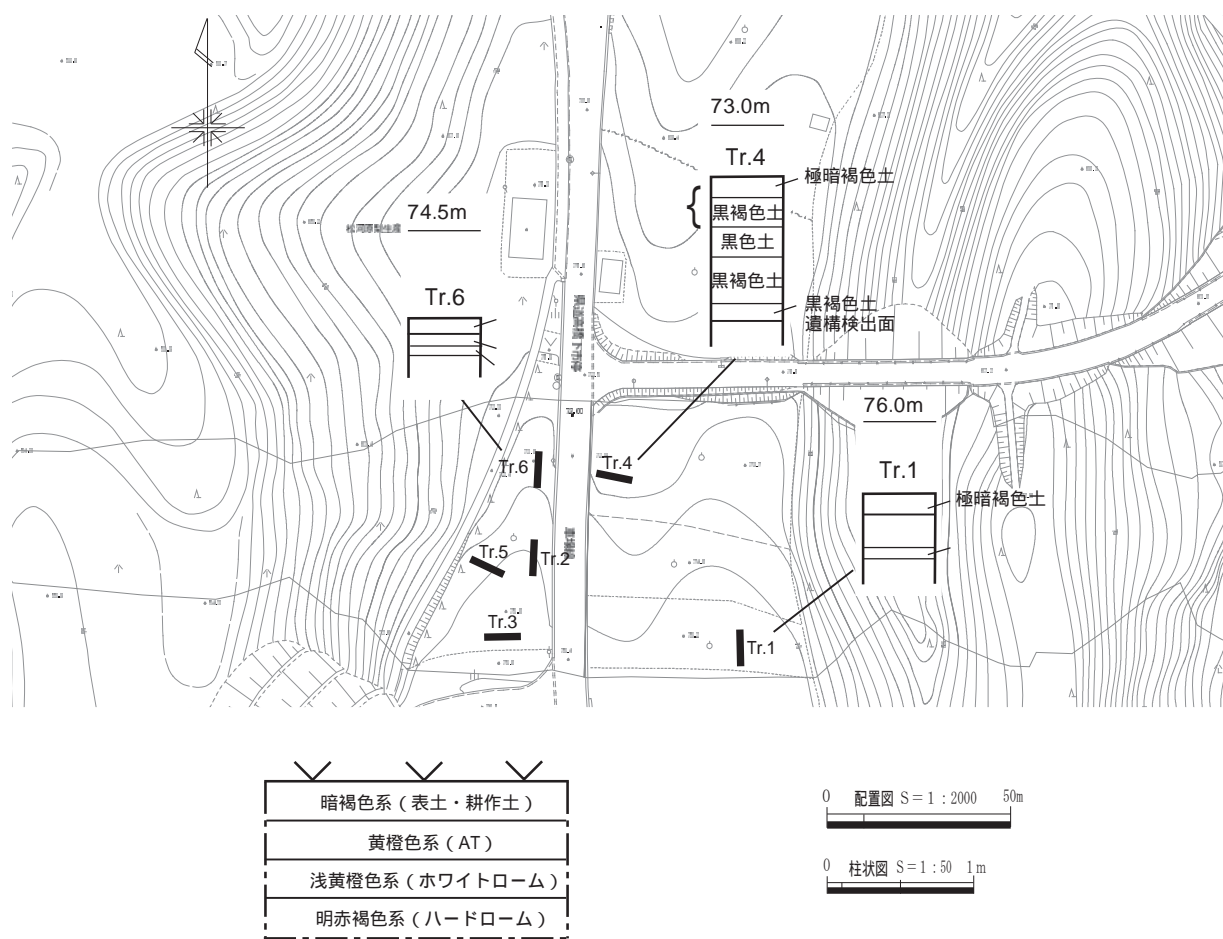
調査面積 120m<sup>2</sup>

調査概要(第34図、表7、PL.12)

下市築地ノ峯東通第3遺跡は、大山から日本海に派生する丘陵上に位置する。西側深くには宮川が流れる深い谷が存在し、東側にはV字状の谷地形を挟んで下市築地ノ峯東通第2遺跡が所在する。現地表面での標高は約72～76mで、地目は畑地および果樹園である。

確認調査は、開発予定地内に、6本のトレンチを設定して行った。調査地は耕作痕の攪乱が広がっているものの、北側傾斜変換点付近で土坑1基を検出できた。遺物は弥生時代の土器小片を中心に出土した。

調査地内の堆積はおおむね4層の基本層序(～層)を確認した。層は表土・耕作土、層以下は火山砕屑物堆積層で、層は始良丹沢火山灰層(AT層)、層はいわゆるホワイトローム層、層はいわゆるハードローム層である。層直下で遺構を検出し、遺構埋土はクロボク起源と思われる黒色土であることから、層より上部は耕作時またはそれ以前に削平を受けていると考えられる。遺物



基本層序模式図  
第34図 トレンチ位置図および基本層序模式図

第5章 確認調査の概要

表7 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模 (m)	面積 (㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構 面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr.1	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代	-	-
Tr.2	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.3	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代	-	-
Tr.4	2 × 10	20	SK 1 (落とし穴)	弥生土器	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代	1面	7層上面
									攪乱土	鉄製品	不明		
Tr.5	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	弥生土器	弥生時代	-	-
Tr.6	2 × 10	20	-	-	-	-	-	-	1層(層)	鉄製品	不明	-	-
									攪乱土	鉄製品	不明		
面積合計		120											

包含層は確認していない。

本遺跡では「県営逢坂地区農免農道整備事業」に伴い、平成13年に旧中山町教育委員会によって行われた発掘調査においてすでに弥生時代の竪穴住居跡などの遺構が確認されており、確認調査においても遺構を確認したことから遺跡が現存すると判断した。

以下、主なトレンチについて報告をおこなう。なお、各トレンチの概要については表7を参照されたい。

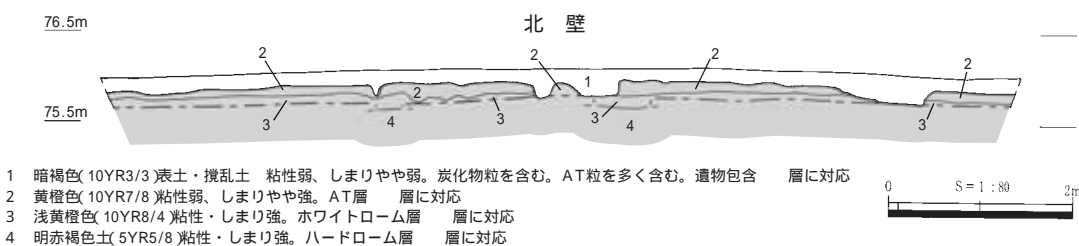
Tr. 3(第35図、PL.12)

標高約76mの調査地南西部の尾根上に2 × 10mのトレンチを設定した。1層が表土および耕作土で基本層序の 層に対応する。2層が基本層序 層に対応するAT層、3層が 層に対応するホワイトローム層、4層が 層に対応するハードローム層である。2層以下が基盤層と考えられるが、2層より上部は耕作時またはそれ以前に削平を受けているものと思われる。1層から弥生土器の小片が1点出土した。

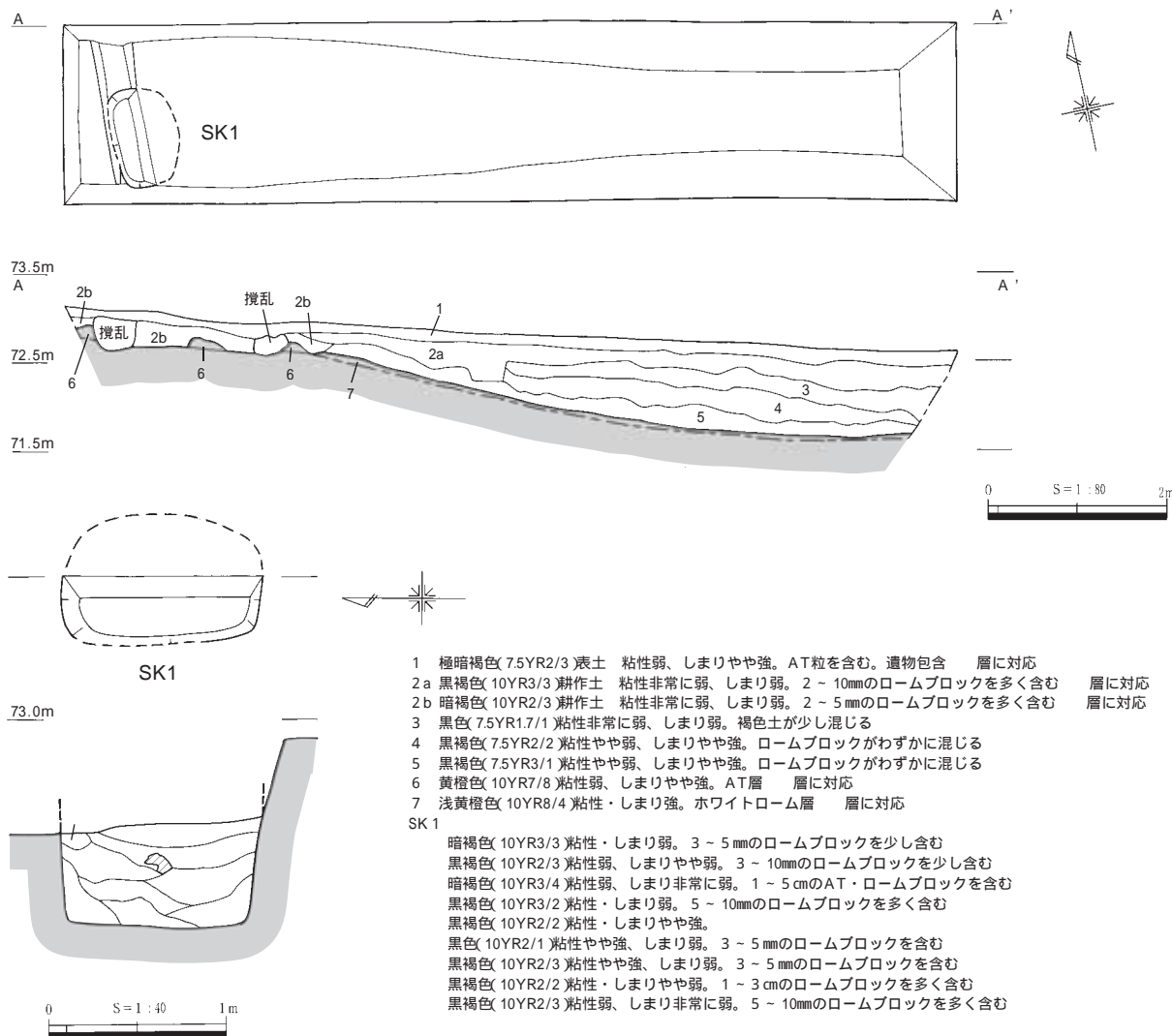
Tr. 4(第36図、PL.12)

県道の東側、標高約73mの畑地傾斜変換点付近で東西方向に2 × 10mのトレンチを設定した。調査の結果7層上面において土坑を確認した。以下、検出した遺構SK 1について概要を述べる。

SK 1はトレンチ西端の7層上面で検出した。平面形はほぼ南北に長軸をとる楕円形で、深さ60cmを測る。埋土は主にクロボク起源と思われる黒色土で構成され、自然堆積の様相を呈する。耕作土と検出面の間にクロボク堆積層が確認できなかったことから、遺構上部は削平を受けているものと思われる。遺物は埋土中層から弥生土器の小片が1点出土した。埋土の状況および形態的特徴から落とし穴と考えられる。



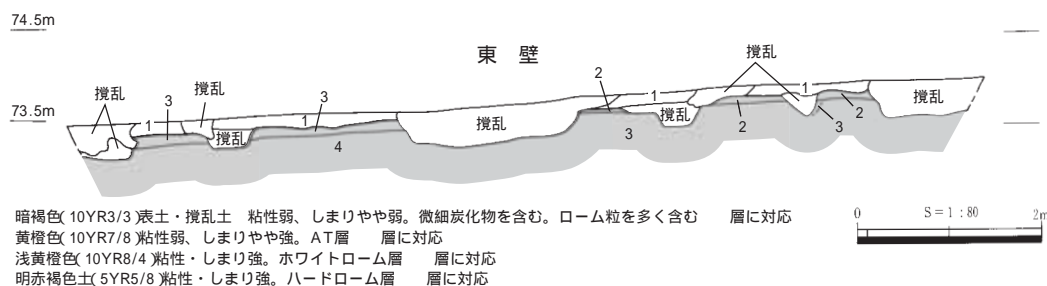
第35図 Tr. 3



第36図 Tr. 4

Tr. 6(第37図、PL.12)

標高約74mの調査地北西部の尾根上に2×10mのトレンチを設定した。1層は表土・耕作土で基本層序 層である。2層が基本層序 層に対応するAT層、3層が 層に対応するホワイトローム層、4層が 層に対応するハードローム層である。2層以下が基盤層と考えられるが、2層より上部は耕作時またはそれ以前に削平を受けているものと思われる。遺物は耕作土、攪乱土から鉄製品と思われる遺物が各1点ずつ出土したが、時期・用途等は不明である。



第37図 Tr. 6

# 第5章 確認調査の概要

## 第3節 下市築地ノ峯東通第2遺跡の調査

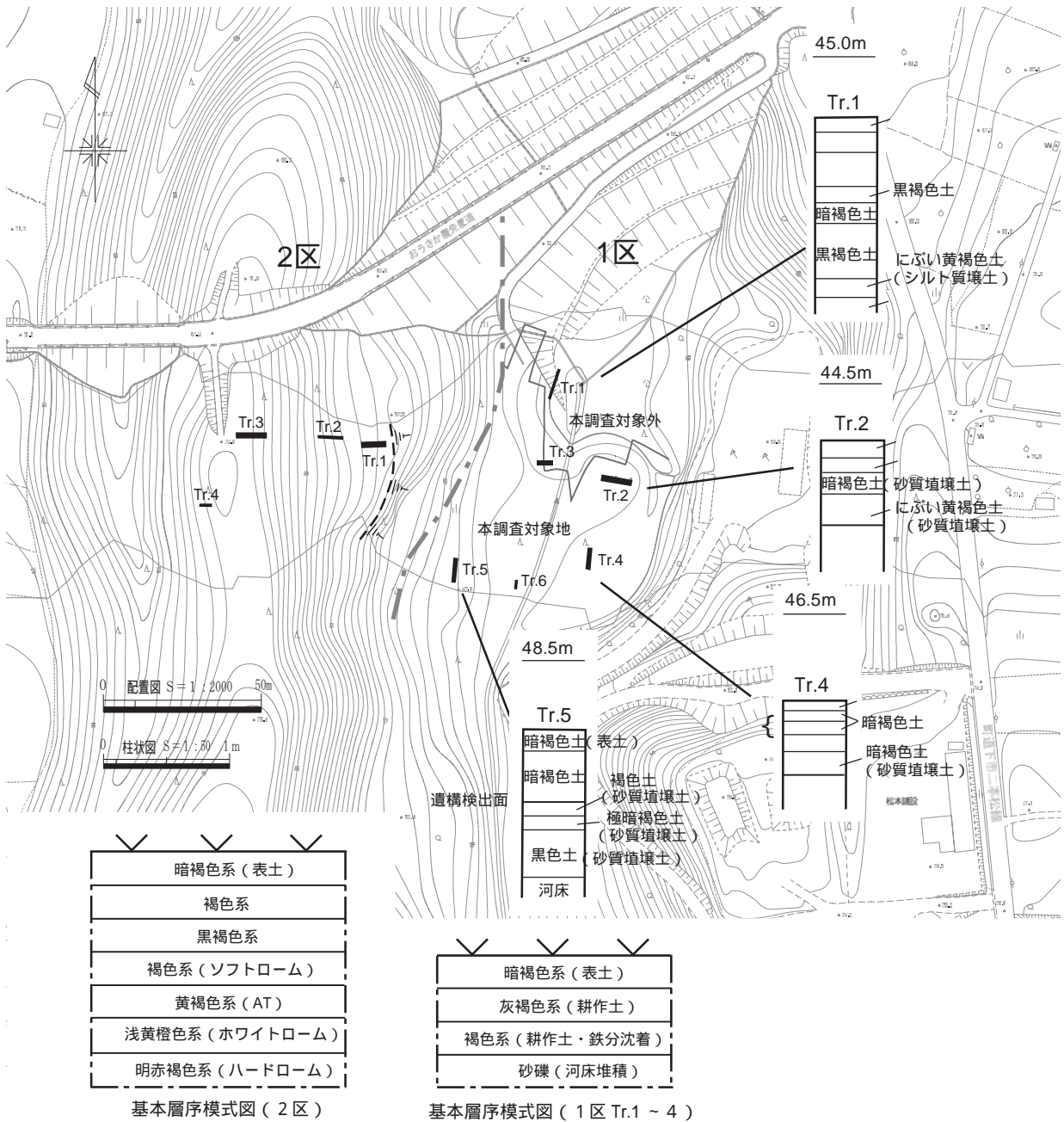
調査地点 大山町下市 397 - 7 外

調査期間 平成 21 年 9 月 3 日 ~ 平成 21 年 9 月 30 日

調査面積 111m<sup>2</sup>

調査概要( 第38図、表 8、PL.13・14 )

下市築地ノ峯東通第2遺跡は、宮川東岸の丘陵地に位置しており、西側には下市築地ノ峯東通第3遺跡が隣接している。調査地は、細い尾根部、尾根東側の斜面部、斜面部東の谷部からなっており、谷部を1区、尾根部・斜面部を2区として別個に調査を行った。



第38図 トレンチ位置図および基本層序模式図

表8 トレンチ一覧表

トレンチ名	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位	
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期			
1区	Tr.1	1 × 10	10	-	-	-	-	-	-	1層(層)	土師器・須恵器	古墳時代～古代	-	-
	Tr.2	2 × 10	20	-	-	-	4層	黒曜石製石器	不明	1層(層)・2層(層)	縄文土器・須恵器	縄文時代～古代	1層1面	-
	Tr.3	1.5 × 5	7.5	-	-	-	-	-	-	1層(層)	須恵器・陶磁器・黒曜石	縄文時代?・古墳時代～古代・近世	-	-
	Tr.4	1.5 × 7	10.5	-	-	-	-	-	-	1層(層)・2層(層)・3層(層)・4層(層)	縄文土器・土師器・陶磁器	縄文時代早期・古墳時代～古代・近世	-	-
	Tr.5	1.5 × 8	12	-	-	-	3～7層	弥生土器・土師器・須恵器	弥生時代～古墳時代	1層(層)	土師器・須恵器	古墳時代～古代	1層1面	8層上面?
	Tr.6	1 × 3	3	-	-	-	-	-	-	1層(層)・2層(層)・3層(層)	弥生土器・土師器	弥生時代～古墳時代	-	-
2区	Tr.1	2 × 8	16	-	-	-	3層(層)	弥生土器・土師器	弥生時代～古代	2層(層)	弥生土器・土師器	弥生時代～古代	3層2面	4・5層上面
							4層(層)	縄文土器?						
	Tr.2	1 × 8	8	SK 1	-	-	-	-	-	-	-	-	1面	4層(層)上面
				SK 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Tr.3	2 × 10	20	-	-	-	3・4層(層)	黒曜石製石器	不明	-	-	-	1層1面	-	
Tr.4	1 × 4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
面積合計		111												

1区の地形は、谷底に形成された標高44～48mの段丘状の平坦地で、東側に谷川(くずくし川)が弧を描きながら流れている。地目は山林であるが、以前は棚田として利用されていたようである。2区は平坦面の幅が20mに満たない狭小な尾根と尾根斜面からなる。尾根の西斜面は傾斜が急であるが、東斜面では緩斜面や平坦面が見られる。標高は尾根上で約73mである。地目は山林である。

1区に6本(63m<sup>2</sup>)、2区に4本(48m<sup>2</sup>)の計10本のトレンチを掘削した。その結果、1区で遺物包含層、2区で土坑2基と遺物包含層を確認した。

1区の堆積はトレンチごとに違いが大きい。いずれのトレンチでも基盤層となる河床堆積と考えられる砂礫層(基本層序 層)の上に、水成堆積物と思われる砂質またはシルト質の土層などが堆積しており(基本層序番号なし)、その上に表土や耕作土など(基本層序 ～ 層)が堆積している。基本層序に統合できなかった各トレンチの土層のうち、Tr.2の砂質埴土(4層)から石器が1点出土したほか、Tr.5の埴土(3層)でまとまった量の土器を確認した。

2区は丘陵地にあたるため、火山砕屑物堆積層が基盤となっており、その上に斜面上部からの流土などが堆積している。これらの堆積は各トレンチ間である程度共通する土層として把握できており、7つの基本層序として整理できた。すなわち、層が表土、層(褐色土)と層(黒褐色土)が斜面上部からの流土であり、層以下が火山砕屑物堆積の基盤層で、層がいわゆるソフトローム層、層が始良丹沢火山灰(AT)層、層がいわゆるホワイトローム層、層がいわゆるハードローム層となる。遺物はTr.1とTr.3で出土したほかは確認できず、図化できるものもなかった。

以下、遺構または包含層を確認したトレンチを中心に報告を行う。なお、その他のトレンチの調査結果については表8を参照されたい。

## 第5章 確認調査の概要

### 1区

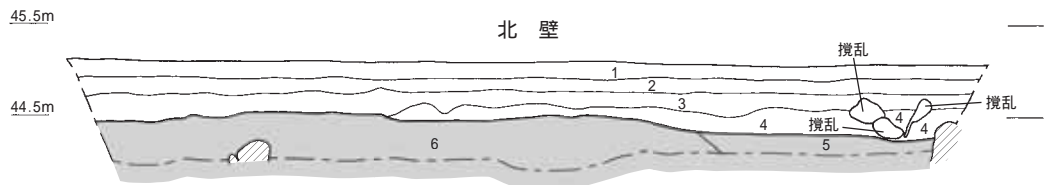
Tr. 2(第39・40図、表10、PL.13)

1区の東部、段丘状の地形が東側に向けて舌状に張り出した部分に設定した。すぐ東側には、くずくし川が流れている。1層が耕作土、2層が旧耕作土の可能性のある鉄沈着の著しい層、3・4層が水成堆積と考えられる砂質埴壤土層、5層以下が基盤層である河床堆積物層と考えた礫を含む砂層または礫層である。

2層からは縄文土器の可能性のある土器小片が1点、4層からは黒曜石製石器が1点、それぞれ出土した。このうち4層出土の石器S1を図化した。S1は石鏃未製品の可能性も考えられるが、石鏃製作に一般的な調整とは異なった加工が見られるので、器種名は尖頭器としておく。背面に原礫面を残した剥片に、腹面からやや角度のついたブランティング状の加工を両側縁に加え、腹面には細かな平坦加工が施されている。このほか、耕作土からは弥生土器または土師器の小片と須恵器小片がわずかに出土している。

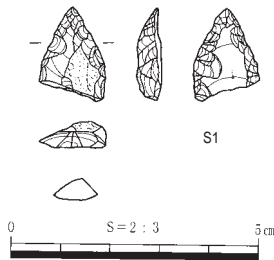
Tr. 4(第41・42図、表9、PL.13)

調査地東部、Tr. 2の21m南に設定した。1～3層が表土・耕作土、4層が旧耕作土、5・6層が水成堆積と考えられる砂質埴壤土層、7層が河床堆積物層と考えた砂礫層である。本トレンチでは耕作土・旧耕作土以外からは遺物は出土していない。1は旧耕作土の4層から出土した縄文土器片で、

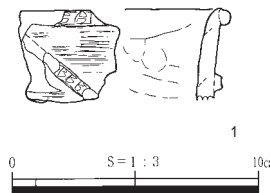


- 1 暗褐色(10YR3/3)耕作土 粘性・しまり弱。粗砂・5～30mmの礫を多く含む。遺物包含 層に対応
- 2 褐色(7.5YR4/6)耕作土 粘性・しまり弱。細砂を多く、粗砂・2～3mmの礫を少し含む。鉄分沈着。遺物包含 層に対応
- 3 暗褐色(10YR3/4)砂質埴壤土 粘性・しまり弱。細砂を多く含む
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂質埴壤土 粘性・しまり弱。細砂を多く含む。3層とほぼ同質。遺物包含
- 5 褐色(10YR4/4)砂壤土 粘性非常に弱、しまり弱。シルトを少し、細砂を多く含む 層に対応
- 6 褐色(10YR4/4)砂壤土 粘性・しまり非常に弱 シルトを少し、細砂を多く、大小礫を含む。5層とほぼ同質 層に対応

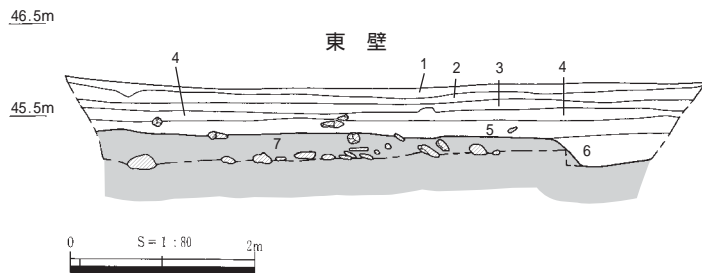
第39図 Tr. 2



第40図 Tr. 2 出土遺物

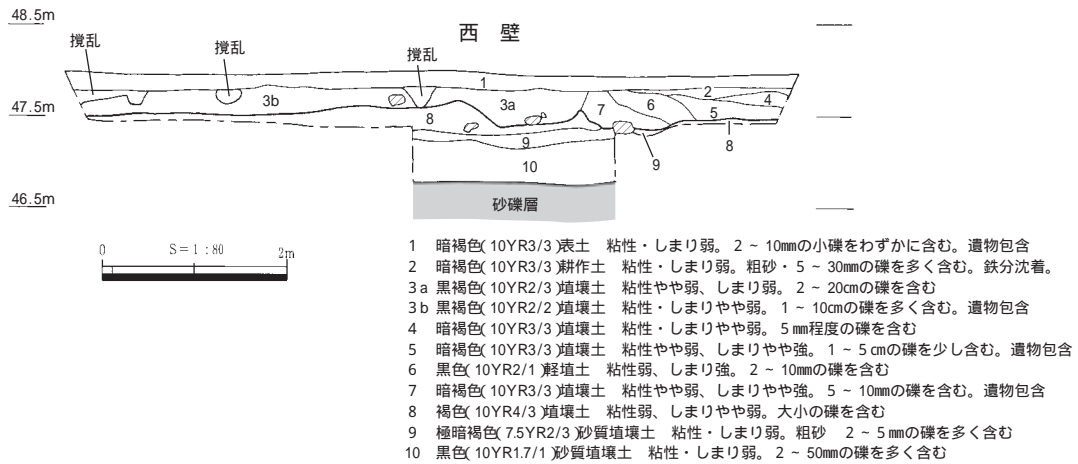


第41図 Tr. 4 出土遺物



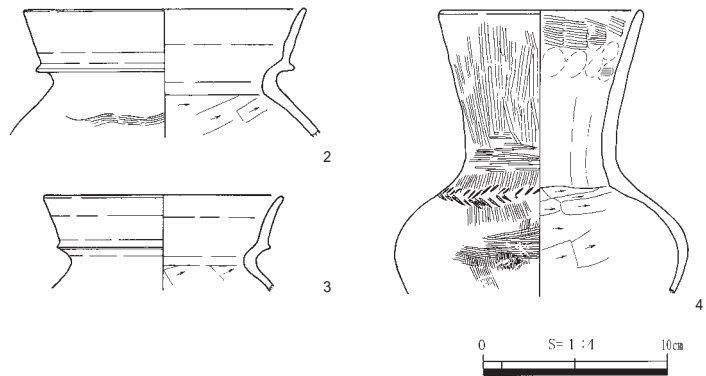
第42図 Tr. 4

- 1 暗褐色(10YR3/3)表土 粘性・しまり弱。2～10mmの小礫をわずかに含む 層に対応
- 2 暗褐色(10YR3/4)耕作土 粘性・しまり弱。2～10mmの小礫を少し含む 層に対応
- 3 暗褐色(10YR3/3)耕作土 粘性・しまり弱。粗砂・5～30mmの礫を多く含む。遺物包含 層に対応
- 4 褐色(7.5YR4/6)旧耕作土 粘性・しまり弱。細砂を多く、粗砂・2～3mmの礫を少し含む。鉄分沈着。遺物包含 層に対応
- 5 暗褐色(10YR3/4)砂質埴壤土 粘性弱、しまりやや弱。5mm以下の小礫を少し含む。20cm以下の礫を含む
- 6 暗褐色(10YR3/3)砂質埴壤土 粘性弱、しまりやや弱。2～5mm程度の小礫を含む
- 7 褐色(10YR4/4)砂壤土 粘性・しまり非常に弱。シルトを少し、細砂を多く含む。大小礫を含む 層に対応



第43図 Tr. 5

早期末葉の隆帯文土器(長山式)である。そのほか、耕作土から弥生土器または土師器の小片と須恵器小片がわずかに出土している。



第44図 Tr. 5 出土遺物

Tr. 5(第43・44図、表9、PL.13)

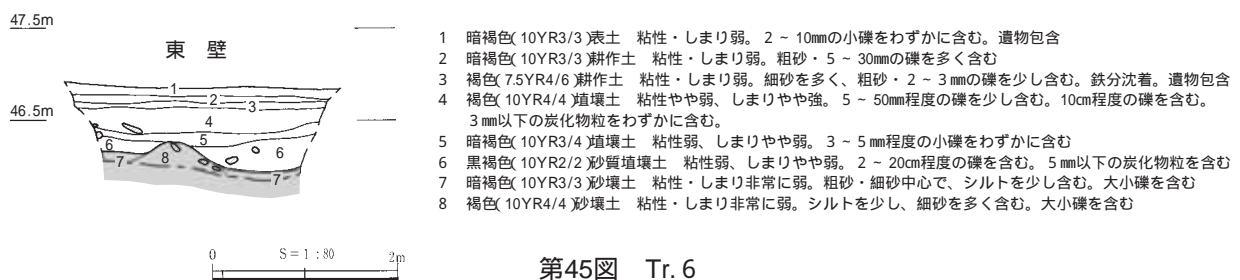
調査地の南西部に設定した。西側には丘陵斜面が迫っているため、本トレンチの堆積には斜面からの流土が含まれている。

1層が耕作土、2~10層が斜面からの流土および水成堆積などによって形成されたと考えられる土層、その下が河床堆積と考えられる砂礫層である。

3~7層が遺物包含層である。これらの層は基本的には同じ堆積によって形成されたものと見られる。弥生時代から古墳時代にかけての土器を中心に、古代の須恵器をわずかに含んでいた。2~4は古墳時代前期初頭の土師器である。いずれも残りのよい破片で、3b層下底からの出土である。平面的にも比較的まとまって出土した。遺物の出土状況から見て、8層上面が遺構検出面となる可能性が考えられる。

Tr. 6(第45図、PL.13)

調査地の南部、Tr. 5の18m東に設定した。Tr. 5と同様に、西側斜面からの流土と水成堆積によって形成された土層を確認した。ただし、Tr. 5で確認した遺物包含層と同一の堆積は本トレンチでは確認していない。1~3層が表土および耕作土、4・5層がTr. 5の8層に近似する土層、6層が



第45図 Tr. 6



## 第5章 確認調査の概要

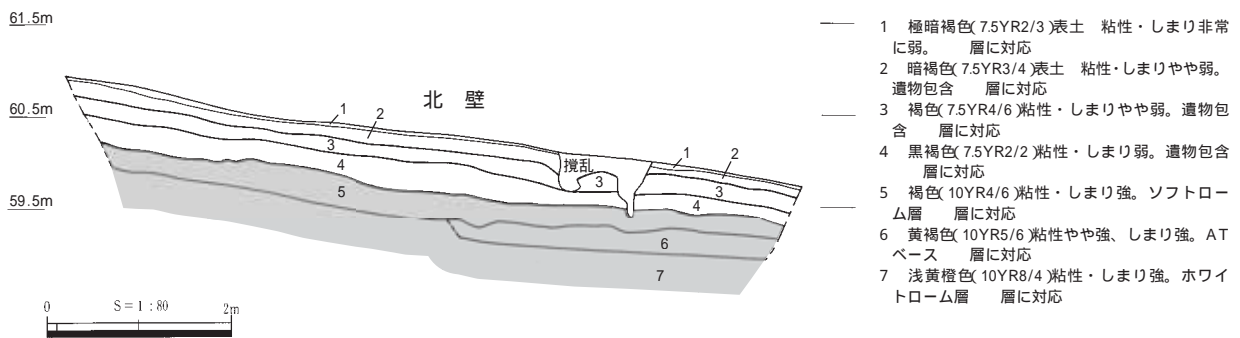
Tr.5の9・10層に近似する土層である。

### 2区

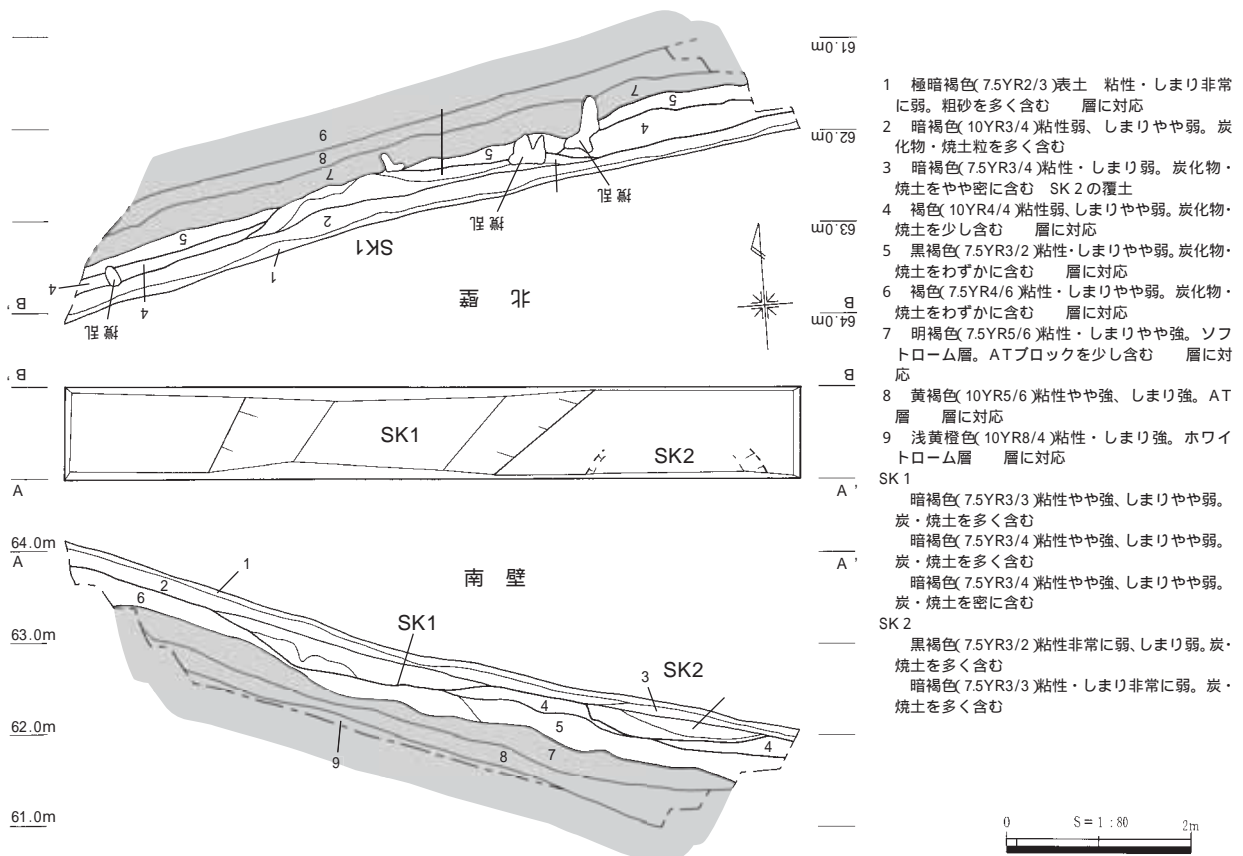
Tr.1(第46図、PL.14)

調査地東寄りの平坦面に設定した。現地表面での標高は約60～61mである。1・2層が表土で基本層序の層に相当し、3層は基本層序の層、4層は基本層序の層にそれぞれ相当する流土堆積である。現地表面からの深さ約50～70cmの位置で基盤層である5層(基本層序層)となり、さらにその下層は6層(基本層序層)となっていた。

遺物包含層は3層と4層であり、3層は古代の須恵器、4層は弥生土器をそれぞれ含んでいた。表土からも弥生土器や土師器が出土したが、いずれも小片のため図化できなかった。



第46図 Tr. 1



第47図 Tr. 2

Tr. 2(第47図、PL.14)

丘陵東側の中腹で、Tr. 1より約8m西の緩斜面上に設定した。現地表面での標高は約62～64mである。1層が表土で基本層序の層に相当する。その下層の2～6層は流土堆積であり、4層が基本層序の層に、5・6層が基本層序の層に相当する。4～6層上面で土坑(SK 1)を、4層上面で土坑(SK 2)を検出した。現地表面からの深さ約40～60cmの位置で、7層(基本層序層)の基盤層となる。7層以下は、火山碎屑物堆積の基盤層であり、8層(基本層序層)、9層(基本層序層)の順で堆積する。遺物は出土しなかったが、Tr. 1との対応から、4層が古代、5・6層が弥生時代の包含層に相当すると推定した。

SK 1はトレンチ中央付近に位置し、4層および6層上面を検出面とする。北壁と南壁の土層観察から、検出面での直径約3～4m、深さ約30cm程度の土坑と推定した。埋土中には炭・焼土が多く含まれていたことから、製炭土坑と判断した。

SK 2はトレンチ東寄りに位置し、4層上面を検出面とする。南壁の土層観察から、検出面での直径約2m、深さ30cm弱の土坑と推定した。SK 1と同様、埋土中には炭・焼土が多く含まれていたことから、製炭土坑と判断した。

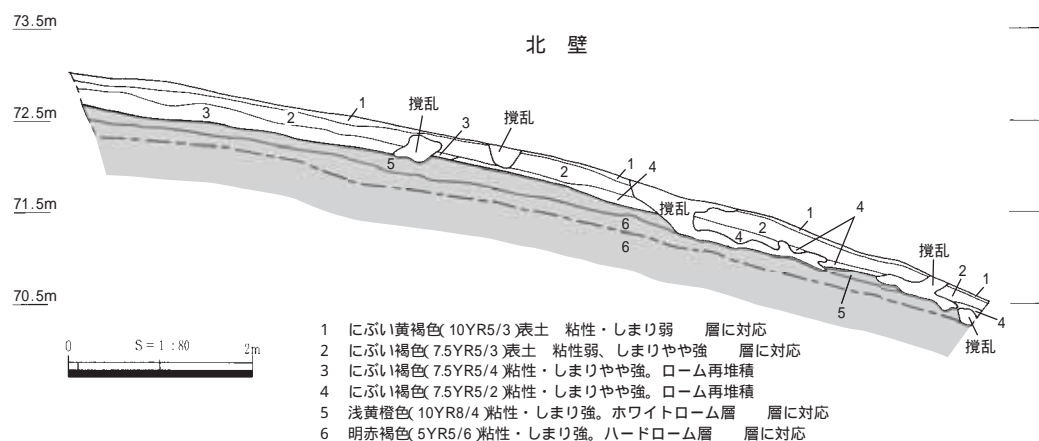
Tr. 3(第48図、PL.14)

丘陵東側斜面の最高所、尾根上平坦面との傾斜変換線の直下に設定した。現地表面での標高は約70.5～73.0mである。1・2層は表土で基本層序層に相当する。その下層の3・4層は流土堆積であるが、ロームの再堆積層とみられ、Tr. 1・2で確認できた基本層序層の堆積とは異なる。基本層序層である、いわゆるソフトローム層も確認できなかった。また、5層と6層は火山碎屑物堆積の基盤層であり、それぞれ基本層序の層と層に相当する堆積となる。

遺物は、3層または4層中から黒曜石製の剥片が出土した。

Tr. 4(第49図、PL.14)

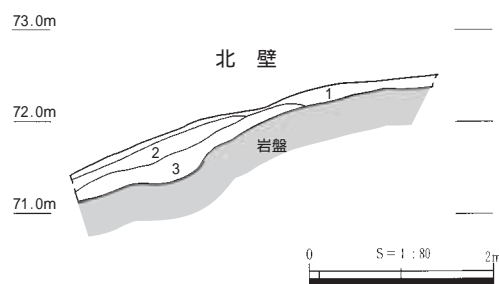
丘陵西側斜面に設定した。現地表面での標高は約71.5～72.5mである。1層は表土で、トレンチ東半分の表土下は、すぐに岩盤となっていた。トレンチ西半分では、ローム再堆積とみられる2・3層



第48図 Tr. 3

## 第5章 確認調査の概要

が厚く堆積し、その下が名和火砕流層の岩盤となっていた。遺物は確認できなかった。



- 1 極暗褐色(7.5YR2/3)表土 粘性・しまり弱。砂礫を多く含む 層に対応
- 2 褐色(7.5YR4/3)粘性やや強、しまり弱。小礫を含む
- 3 暗褐色(7.5YR3/3)粘性・しまりやや強。粗砂を少し、小礫を含む

第49図 Tr.4

表9 出土土器観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種類器種	部位残存率	法量 (cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	第41図	No.10	1区 Tr.4 4層	縄文土器 深鉢	口縁部 1/8以下	器高: 5.0	外面: 口縁隆帯貼り付け。隆帯上二枚貝腹縁によるキザミ。体部貝殻痕 内面: ナデ。指頭圧痕	やや密(1~4mm大の砂礫含む)	良好	外面: にぶい黄橙色 内面: 黄橙色	繊維混入
2	第44図	No.15	1区 Tr.5 3b層	土師器 甕	口縁部 1/8程度	口径: 15.0 器高: 7.0	外面: ナデ。波状文後ナデ消し 内面: 口縁部ナデ。胴部ヘラケズリ	密(1mm大の砂粒含む)	良好	内外面: 橙色	
3	第44図	No.16	1区 Tr.5 3b層	土師器 甕	口縁部 1/6	口径: 12.8 器高: 5.3	外面: ナデ 内面: 口縁部ナデ。胴部ヘラケズリ	密(1mm大の砂粒含む)	良好	内外面: 黄橙色	
4	第44図	No.18	1区 Tr.5 3b層	土師器 長頸壺	口頸~体部 1/4~1/2	口径: 10.6 最大径: 16.0 器高: 15.4	外面: 口縁部ナデ。頸部ミガキ。胴部八ケ目。胴部上位に列点文 内面: 口縁部八ケ目。頸部ナデ、上位に指頭圧痕、胴部ケズリ	密(0.5~2mm程度の砂粒多く含む)	良好	内外面: にぶい橙~橙色	

表10 出土石器観察表

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ層位	種別	石材	法量				備考
						最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
S 1	第40図	No.4	1区 Tr.2 4層	尖頭器	黒曜石	1.9	1.4	0.5	1.08	

第5章 確認調査の概要

表38 出土土器観察表(2)

遺物番号	挿図番号	取上番号	トレンチ遺構・層位	種類器種	部位残存率	法量(cm)	調整・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
22	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	口縁～体部 1/4以下	口径：14.8 器高：3.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ	密	良好	内外面：にぶい黄 橙色	
23	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	体～底部 1/4以下	底径：9.4 器高：2.9	内外面：体部回転ナデ。底 部ナデ	密	良好	内外面：浅黄橙色	内外面に赤色塗彩 あり
24	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	体～底部 1/4以下	底径：7.2 器高：2.8	内外面：回転ナデ	密	良好	内外面：橙色	
25	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	体～底部 1/4以下	底径：8.8 器高：2.5	外面：体部回転ナデ。底面 ヘラ切り後ナデ 内面：体部回転ナデ。底部 ナデ	密	良好	外面：橙～にぶい 橙色 内面：橙色	
26	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 高台坏	底部 1/4以下	高台径：7.6 器高：2.1	外面：体部～高台回転ナデ。 底面ナデ 内面：ナデ	密	良好	内外面：にぶい黄 橙色	
27	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 甕	口縁部 1/4以下	口径：26.2 器高：3.1	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケ ズリ	密(微砂を含む)	良好	外面：褐色 内面：黒褐色	外面にスス付着
28	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 高台坏	底部 1/4以下	器高：2.0	外面：体部～高台回転ナデ。 底面ヘラ切り後ナデ 内面：ナデ	密(径1～2mm程 度の砂粒を含む)	良好	内外面：橙色	
29	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 高台坏	底部 1/4以下	高台径：10.0 器高：3.2	外面：体部回転ナデ。高台 ミガキ 内面：底部ナデ、ミガキ。 高台回転ナデ、ナデ	密	良好	内外面：にぶい橙 色	内外面に赤色塗彩 あり
30	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 甕	頸～胴部 1/4以下	器高：5.7	外面：ナデ 内面：頸部ナデ。胴部ヘラ ケズリ	密	良好	内外面：明褐色	
31	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 坏	口縁～底部 1/4～1/2	口径：11.6 底径：6.4 器高：3.7	内外面：体部回転ナデ。底 部ナデ	密	良好	内外面：にぶい橙 ～赤色	内外面に赤色塗彩 あり
32	第132図	No.46	Tr.19 SD1 層	土師器 甕か	胴部 1/8以下	器高：5.4	外面：ナデ、指頭圧痕 内面：回転ナデ	密	良好	内外面：明褐色	内面の一部に赤色 顔料が付着
33	第132図	No.37	Tr.19 耕作土・造成土	須恵器 甕	胴部 1/8以下	器高：6.2	外面：擬格子目タタキ 内面：同心円文当て具	密	良好	内外面：灰色	意図的に破碎して 再利用したか
34	第132図	No.49	Tr.19 耕作土・造成土	土師器 高台坏	底部 1/4～1/2	高台径：6.8 器高：1.6	外面：体部～高台回転ナデ。 底部ナデ 内面：体部回転ナデ。底部 ナデ	密	良好	外面：明褐色～淡 褐色 内面：暗褐色	外面体部～高台赤 色塗彩
35	第132図	No.49	Tr.19 耕作土・造成土	土師器 高台坏	底部 1/4	高台径：7.0 器高：2.9	外面：回転ナデ 内面：ナデ	密	良好	内外面：橙色	内外面に赤色塗彩
36	第132図	No.37	Tr.19 耕作土・造成土	須恵器 坏	口縁部 1/4以下	口径：13.8 器高：2.8	内外面：回転ナデ	密	良好	外面：灰黄色 内面：灰白色	
37	第132図	No.43	Tr.19 耕作土・造成土	土師器 皿	口縁～底部 1/4以下	口径：7.4 底径：6.0 器高：1.3	外面：口縁～体部回転ナデ。 底面回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：浅黄橙～灰 黄褐色 内面：にぶい橙色	